

令和3年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
					達成値		特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	157,800	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値 達成率: 39.1%	
				61,687	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	39,890	人	未達	基準値: 39,886人 目標参考値: 39,886人 達成率: 94.3%	
				37,624	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,080	件	未達	基準値: 1,075件 目標参考値: 1,075件 達成率: 69.4%	
				750	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	16,508,000	円	未達	* 当該年度予算計上額 達成率: 99.9%	
				16,503,673	円			

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
					達成値		特記事項	
1	特別展・企画展	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	25,060	人	未達	基準値: 25,053人 目標参考値: 25,053人 達成率: 98.1%	
				24,591	人			
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	43	校	未達	基準値: 28校 目標参考値: 43校 達成率: 93.0%	
				40	校			
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	98	校	未達	基準値: 98校 目標参考値: 98校 達成率: 87.8%	
				86	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による 達成率: 113.1%	
				11,314	点			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	380	件	達成	昨年度実績による 達成率: 107.1%	
				407	件			
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	458,230	件	達成	基準値: 458,226件 目標参考値: 458,226件 達成率: 115.0%	
				526,930	件			
7	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による 321人/353人	
				91	%			
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による 渋沢展92% 太平記展92% 考古50選89% お茶展83% 満足/総数: (846+863+532+323)/(927+934+595+389) = 90.1%	
				90	%			

※ 利用者数 = 常設展観覧者数 + 無料入館者数 + アウトリーチ参加者数

常設展観覧者数 = 特別展・企画展観覧者数 + 常設展のみの観覧者数

※ 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値
目標値: 目標参考値の1の位を繰り上げた数値

※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進 2 令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせた事業の実施 3 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催 4 学校教育との連携 5 他施設等とのネットワーク機能の充実 6 戦略的広報の推進
事業の実施状況と過程	1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進 ○文化遺産調査活用事業の実施 ・『無形文化財調査研究事業』『巡り・廻りの民俗行事Ⅱ』の実施 ・『歴史遺産調査研究事業』『新編武蔵風土記稿』総合調査の実施 ○計画的な資料点検、保存状態の確認及び保存環境の整備推進 2 令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせた事業の実施 ○企画展「太平記絵巻―描かれた武士の世界―」開催 ○イベント「SAITAMAから世界に届け！応援絵馬」の開催 3 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催 ○特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」開催 ○企画展「太平記絵巻―描かれた武士の世界―」開催 ○埼玉150周年・開館50周年特別展「埼玉考古50選」の開催 ○企画展「お茶を楽しむ」の開催 ○企画展「埼玉武術英名録」の開催 4 学校教育との連携 ○学校団体受入れ及び出前授業の実施 5 他施設等とのネットワーク機能の充実 ○MVO連絡協議会の9施設による連携事業開催 ○埼玉県博物館連絡協議会等の運営 6 戦略的広報の推進 ○館ホームページの充実(コロナ禍に伴う動画コンテンツ等の配信) ○各種媒体により館事業の紹介を発信
事業の成果	1 「玉敷神社のお獅子さま」の実施、映像記録「風布の回り念仏」を制作した。 2 企画展「太平記絵巻」、イベント「SAITAMAから世界に届け！応援絵馬」を開催した。 3 年度当初に計画した3つの企画展、2つの特別展を開催した。 4 86校の学校団体を受入れ、40校に出前授業を実施した。 5 MVO主催で周辺施設と連携し、キーワードラリー、合同展示解説を実施した。 6 博物館公式YouTubeチャンネルで、7つの動画を制作、公開した。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	34人 (21人)	総予算額 (人件費を除く)	117,569,000円	職員一人あたりの県民人口	21.6万人
収蔵資料総点数 (R3.3月末現在)	126,281点	事業経費 (上記の内数)	91,853,000円	利用者一人あたりのコスト (令和2年度)	4,202円
令和2年度 収集資料点数	13点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	16,508,000円 (8,657,700円)	県民人口に対する利用者割合 (令和2年度)	0.37%

(注)令和3年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,788人である

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	資料収集方針
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価会議開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し、管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫・殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及び記録化の実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用、資料別光度測定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的を確認しているか	A	月2回のIPM作業・資料点検時等に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新を実施

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数295点
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数26点
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数480点
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	適宜更新
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	B	解説リーフレットで代用
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	B	ボランティアガイドの制限
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、葉書、電子申請
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	B	特別体験メニューの制限
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、見学実習
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	館HPで公開
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共催事業(プレミアム講座等)
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	C	大盆裁祭り、北区民まつり等 今年度中止
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産調査活用事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系に基づき実施
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	渋沢資料館の資料調査
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	令和3年8月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	A	常設展解説パネルの多言語化を実施
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季の延長設定
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の利活用	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	MVO等、コロナ禍により利用者減少
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	埼玉大学とミュージアムカレッジ実施

3. 各館独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
特別展・企画展事業の実施	① 中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	A	アンケートの要望を参考
	③ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	A	新出資料の展示、記念講演会開催
	④ 全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	A	特別展2回 企画展3回
	⑤ 模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	A	映像や音声の利用
	⑥ 展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	A	展覧会ごとに観覧者アンケートを実施
	⑦ 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	年間目標値を設定
	⑧ 展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	① 勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝太刀・短刀、国宝藤光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品他
	② 公開承認施設として資料を公開しているか	A	特別展で借用・公開
	③ 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	B	埼博連による研修会・見学会の一部中止
	④ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼博連会長館及び事務局
	⑤ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	関博協、歴民協等
	⑥ 県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	経営総合調整会議
ゆめ・体験ひろばの運営	① 地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	② 埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	③ いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	B	ものづくり工房体験メニュー予約制
	④ 世代間交流ができるプログラムを提供しているか	B	ペーゴマ教室等中止
	⑤ 常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥ 多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	B	昭和の原っぱイベント中止
	⑦ 地域と連携したプログラムを提供しているか	B	射的あそびや、組紐体験等を制限付きで実施
	⑧ 学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統文化の記録・公開・継承	① 県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	② 展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	有形民俗文化財長板中型・青縞の展示
	③ 県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	A	民俗芸能講習会実施
	④ 伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	民俗工芸実演の実施
新コロナ型感染症対策	① 館内利用者を介したクラスターの発生はなかったか	A	対応方法は次ページ参照
	② 利用者から館の対応に関するクレームはなかったか	A	

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために実施した対策(令和3年度)

利用者への説明	館内外の掲示、ホームページでの周知
入館制限	入場者数の上限設定、館出入り口の制限、発熱や風邪症状のある方の入館制限
入館者管理	検温、手指消毒、入館カード記入依頼(氏名・連絡先・発熱等体調不良の有無)
施設管理	職員及び委託業者による消毒、換気の徹底、受付カウンターにアクリル板の設置
職員の衛生対策	マスク着用や手指消毒・健康管理の徹底、発熱や風邪症状のある職員の出勤自粛、受付職員のフェイスシールドの着用
館内行動の制限	会話制限の依頼、十分な間隔をあけての観覧やマスク着用の依頼、椅子・コインロッカー・幼児コーナー等の利用制限、ハンズオン展示等の制限
講堂・講座室の制限	利用人数制限
事業の制限	体験メニューの事前予約制の導入、ボランティア活動の制限、接触を伴う体験事業の中止
県全体の対策実施	主催事業の中止・延期・規模縮小、感染防止アプリのダウンロードの依頼

令和3年度 博物館施設 総合評価 (年度末)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達	
全館共通	数値目標による評価	0	4	
各館独自	数値目標による評価	5	3	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	85	4	1
各館独自	チェックリストによる評価	23	5	0

自己評価総括

評 価	<p>・昨年度と同様、観覧者数に比べて利用者数・入館者数の減少率大きい。いずれも昨年度比では2倍強となっており、一昨年度と比較すると約半分にも満たない。</p> <p>・無料スペースの利用者(カフェ利用者、講座参加者、ゆめ体験ひろばのみの利用者)が依然少ない。昨年度と比較しても、比率的には大きくは回復していない。</p> <p>←立ち寄り入館者の減少、イベントの中止、講座の人数制限、ゆめ体験ひろば予約制等の継続が影響している。</p> <p>・常設展観覧者数は一昨年度の約83%まで回復している。(昨年度比では2.6倍)</p> <p>・特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし」「埼玉考古50選」、企画展「太平記絵巻」「お茶を楽しむ」をほぼ予定通り開催することができ、いずれも好評を得た。特別展、企画展の観覧者数は、1日当たりに換算すると昨年度比で約150%、一昨年度比で約85%。</p> <p>・学校団体人数は昨年度の約4.6倍まで増えるものの、一昨年度の約67%にとどまる。</p> <p>←団体の入館制限を100人としているため断った学校もあり、小規模校が多い。</p> <p>・観覧者のうち、学校団体を除いた一般観覧者数は約9割まで回復している。</p> <p>・入館者の満足度は目標を大きく超えており、高評価を得ている。</p> <p>・基礎的な調査事業や資料保存対策は着実に実施できた。</p> <p>・YouTubeの公式チャンネルを開設し、当館の事業を楽しめるコンテンツを充実させた。</p> <p>・出前授業は昨年度は43校と、コロナ禍による需要が多かったが、今年度も同様の校数で実施している。ただし学校団体来館校数は昨年度より多いので、全体としては当館を利用した学校は増加している。</p> <p>・学習支援事業について感染症対策を検討し、実施の可否または中止を決定した。判断は適切であったと考えられる。</p> <p>・観覧料および体験プログラム等の事業収入も、目標値に近づくことができた。</p> <p>・全館体制で、入館者への感染症対策に万全を尽くすことができた。</p>
課 題	<p>①常設展観覧者数はかなり回復しているが、当館常設展観覧の目玉の一つである展示解説ボランティアの定時解説が、コロナの影響で再開できなかった。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、新聞社・出版社等のマスコミ向けの広報が目標値に届かなかった。</p> <p>③資料の定期清掃、点検等の保存対策は今後も継続的に実施していく必要がある。</p> <p>④感染拡大が収束するまでは大規模な学校団体を安全に受入れることや、展示解説等対面が多いプログラムの実施が困難である。</p> <p>⑤安全確保のための予約制や事業定員縮小で、ゆめ・体験ひろば利用者数の回復が難しい。またコロナ禍で実施できなかった事業の継続について検討・見直しが必要である。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公園に面した南門を閉鎖(令和4年5月1日より開門)するとともに、入館に際し検温、消毒、連絡先等の記入をお願いしていることから、公園利用者における来館の利便性が損なわれている。</p>

※課題の番号に対応

- ①コロナの状況により予断は許さないが、例えば、参加定員、時間、回数等を精査し、定時解説の試行を検討する。
- ②展示やイベントなどの内容に合わせ、積極的にマスコミに情報発信し、集客に結びつけていく。
- ③資料保存対策の基礎となるデータを、収蔵資料データベースを活用して蓄積・更新していく。
- ④大規模校に対し、引き続き分散しての来館について学校側の理解と協力を求め、そのための情報提供につとめる。
- ⑤体験事業の予約制は継続する。定員については感染状況を見ながら適切な人数で実施する。事業は廃止や新規実施も含め見直しを行う。
- ⑥今後、新型コロナウイルスの感染が収束する傾向になったとしても、感染対策を継続していく必要がある。

評価結果に対するコメント

【博物館評価小委員会 浅倉委員】

・利用状況および広聴・広報について、コロナ感染症対応継続中での目標値達成が困難という状況のなか、特別展・企画展の観覧者数が98.1%達成は、評価できる点である。

・常設展観覧者数が昨年度比で2.6倍、特別展・企画展の観覧者数が1日当たり換算で昨年度の約1.5倍という点は、当博物館に求められているものが何か、訪問者が県立歴史と民俗の博物館に何を求めているか、明確になったと理解できるのではないかと考える。これは県立博物館が果たすべき役割が多方面に及ぶことは言うまでも無いが、何よりも常設展・特別展の充実によって、制限されたなかでの観覧者数増加をもたらしたという結果と考えられる。より一層、展示の充実をお願いしたい。

・対マスコミ情報発信について発信件数が未達ではあるが、YouTubeの公式チャンネル開設は、あらたな取り組みとして評価できる。これまで観覧したことのない人々が来訪してみようという気持ちになるような発信を期待したい。

・あわせて、新聞社・出版社等のマスコミ向け広報については、特別展・企画展に関連する情報に限らず、当館ならではの特色ある収蔵品、学芸員の専門をいかした学術的な報告などの発信を期待するところである。これまでの特別展・企画展において、貴重な資料が収蔵されていることを知る機会があったが、そうした収蔵品の重要性を、観覧者のみならず知って貰う機会が増えることで、観覧者の増加も見込まれるのではないかと考える。

【博物館評価小委員会 丸井委員】

・コロナ感染真只中の昨年より改善されていると思いますが、一昨年に対して比べるとまだ回復途上である内容と思われまふ。全館をあげての感染症対策は職員のみならず入場者に対してのきめ細かい対応が大規模な閉館もなく功を奏していると評価します。

・入館者の高評価(NHK大河ドラマ特別展他)は学芸員の方等の日頃の創意工夫が実った結果、評価されたものと思ひます。これだけの充実した内容なら観覧したことのない一般の方にもっと周知すべきと思ひますので、コロナ感染の制約を受けないネットを通じた情報発信を今まで以上に情宣すべきで、マスコミ向けの広報ももっと重視すべきと思ひます。

・入館者の人数等の未達は止むを得ない事情のためと理解しています。特に学校団体の受け入れ(来館対応)は入場制限を行っているため小規模校が多かったとされていますが、100名以上の大規模校も受け入れることができる対応(人数の緩和や分散開催等)を行ってほしいと考へます。

評価結果に対するコメント

【博物館評価小委員会 井上委員】

- ・本年度も新型コロナウイルスの影響で、中止となる事業があったことは、残念ながらやむを得ない。むしろ、感染対策を最優先に、観覧者や職員の安全を確保しつつ事業を展開し、一定の成果を達成した点を素直に評価したい。
- ・博物館活動の中核をなす展観事業が順調に展開され、入館者の回復・満足度の高揚がみられたことは、高く評価できる。
- ・資料点検やレファレンス件数が目標値を上回っていることは、コロナ下でも可能な事業を着実にこなしていることを示しているといえる。
- ・対マスコミ発信件数は目標値を大きく下回っている一方、HPアクセス数が伸びており、YouTube公式チャンネルが開設された。ネット社会に対応した活動展開には、今後も注力してゆくべきである。
- ・対応の方向にあるように、感染症が収束傾向になったとしても、当面は対策の継続が不可欠である。コロナ下で培われた行動様式に慣れた人々が多い中、対面のイベントやボランティア解説の希望者は、しばらく順調な回復は見込めないかもしれない。アフターコロナとインターネット社会に対応した指標の見直しが要請されてくるだろう。ZoomやYouTubeなどの活用も考慮に入れた検討を行う必要がある。

各館協議会・委員会の意見